



9月7日、2023年度予算編成に関して重要政策提言を行う党県議団。

9月議会

9月20日～10月24日まで、9月定例議会が開催されました。

日本共産党県議団は、コロナ対策・少人数学級・ジェンダー平等の実現を求める論戦を行いました。

ジェンダー平等・いのち・暮らしを守る 誰もが大切にされる県政を！

男女賃金格差の是正を

男女別の平均年収は、男性532万円、女性293万円で、その差は239万円。40年間勤務とすると生涯年収は約1億円の差。退職金や年金など老後にも大きく影響します。

「男は仕事、女は子育て、仕事はパートやアルバイト」という性別役割分担と一体不可分で、「社会の中心は男性」、女性の社会的地位の低さや家事・育児はもっぱら女性が担うことを固定化する

経済的土台となっています。

女性差別の解消・女性の地位向上・真の女性活躍へ、政治が真正面から取り組みべき課題です。女性の賃金向上・正規雇用を増やし、上級管理職の登用を促す企業や事業者へ奨励金制度やインセンティブ制度をつくること、国の助成金の活用などを提案しました。



痴漢対策の強化

最も身近な性暴力は痴漢です。

受験生を狙った痴漢の対策強化を県警や鉄道事業者などに求めたなか、痴漢対策は進みましたが、依然流される動画は、「出入口に立たないように」「スマホに熱中しないように」など女性に延々と注意喚起するもので、これでは痴漢に遭った女性が悪いとなってしまい、通報に結びつきません。女性への注意喚起ではなく、悪いのは加害者で被害女性には非がない

ことや、電車内でも躊躇なく110番していいことなど、大々的にアピールするよう求めました。

痴漢を含む性暴力被害について、若年者に初めて内閣府が実態調査を行い、圧倒的に多数の被害女性が警察に通報も相談もしていないことがわかりました。痴漢をなくしていくためには、通報しやすさ！と考える環境づくりが必要です。



パートナーシップ宣誓制度の導入を

LGBTQ・SOGIをはじめ多様性を認め合うダイバーシティ、SDGsの推進が求められ、行政によるパートナーシップ宣誓制度が全国で広がっています。

それぞれの立場、一人ひとりの人権を尊重するという根本問題であり、多様性を認めあい、誰も取り残さない県政運営を進めていくために必要不可欠な課題です。

誰も取り残さない県政をめざしSDGsやダイバーシティの推進に力を入れている兵庫県として、「ひょうご男女いきいきプラン」の中の一課題に留めず、LGBTQ・SOGIに関する基本計画を策定するとともに、パートナーシップ宣誓制度を導入するよう強く求めました。

パートナーシップ宣誓制度を導入している都府県・自治体

都道府県 (10都府県)	茨城県・群馬県・大阪府・三重県・佐賀県・青森県・秋田県・栃木県・福岡県・東京都
県内 (10市1町)	宝塚市・三田市・尼崎市・伊丹市・芦屋市・川西市・明石市・西宮市・猪名川町・姫路市・たつの市



新型コロナウイルス

県の対策を批判→見直し

兵庫県のコロナ死亡者数(人口比あたり)は、大阪に次いで、全国ワースト2位です。

コロナ禍でも病院の統廃合をおしすすめ、2020年度は415床、2021年度は69床、あわせて484床の急性期病床を削減するなど医療体制の後退が要因です。

また兵庫県だけが、軽症者、若年者に対し、自主療養届出制度を継続し、医療や行政支援から締め出そうとしていました。

党県議団は、症状が急変した場合、手遅れになりかねないと批判。県は、自主療養届出制度を陽性者登録センターに統合し、宿泊療養調整や食糧支援を可能にしました。

インフルエンザとコロナ第8波の同時流行が懸念されています。党県議団は、誰もが早期に診断、治療などが行えるよう臨時検査センター、臨時も含めた病床確保、療養施設の確保と活用の促進などを求めています。



県立 高校統廃合

統廃合ありきの計画は撤回を

県教育委員会は、2025年度に全県で14校を6校に統合します。県教委は法定上根拠がない1学年6〜8学級を『望ましい学校規模』として、それ以下の規模の学校を統廃合の対象にしています。

党県議団は、学級定数の40人を30人にして、学級数を増やせば、教職員も増え、より充実した指導が可能であること、逆に統廃合した場合、通学時間が増えて、部活動等に支障をきたすと指摘しました。

また対象校では、説明会すら開かれておらず、住民説明会等を求める声が相次ぎ、県教委は説明会を行うことを表明しました。しかし、統合前提の「基本計画」策定後では意味がないと、策定前に生徒・保護者・教職員・地域住民への説明会を開き、県民の意見を聞くこと、それぞれの高校を存続させ、一人ひとりの生徒にきめ細やかな教育、知事公約の30人学級を早急に取り組むことを求めました。



千種高校視察

9月8日、議員団は宍粟市にある県立千種高校を視察。全校生徒112名、1学年1クラスの小規模校で、授業はさらに理系/文系に細分化している珍しい学校です。

先生は、「小規模だからこそ生徒とじっくり向き合えて、学力に応じた丁寧な指導ができる」「これこそが本来の教育のあるべき姿だ」と率直に語られました。



校舎前で校長先生と教頭先生、党県議団。



高校統廃合見直しの署名にご協力を！

意見書が 全会一致 で採択

中学校・高校も含めた少人数学級の本格的な実施を求める意見書

ねりき恵子
宝塚市
文教常任委員

いそみ恵子
西宮市
産業労働常任委員

きだ結
神戸市東灘区
健康福祉常任委員

庄本えつこ
尼崎市
総務常任委員

入江次郎
姫路市
建設常任委員